

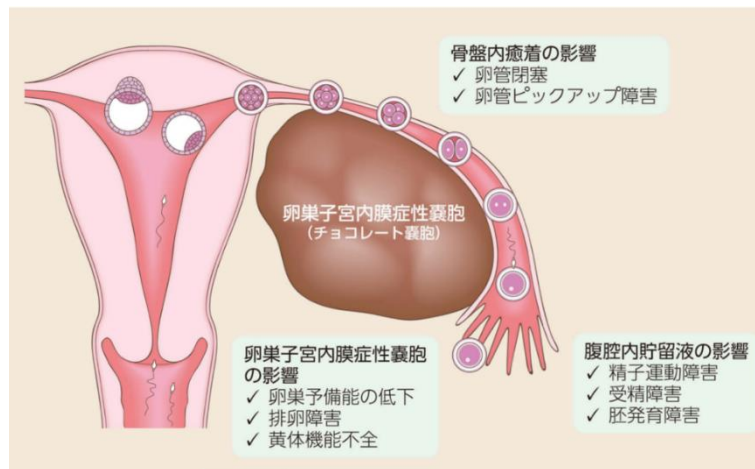


# 子宮内膜症について

子宮内膜は子宮内部に存在する細胞のことで、本来子宮の中にしか存在しません。しかし、何らかの原因により子宮外（特に卵巣や、子宮の筋肉内、ダグラス窩、腸の表面、腹膜など）＝異所性にできてしまうことがあり、これを子宮内膜症と言います。月経とは子宮内膜が剥がれ落ちる現象ですが、同時に異所性子宮内膜も剥がれ、出血します。そして、出血した場所は血が止まる過程で癒着を起こします。これが悪化すると月経痛や不妊の原因となります。また、稀に癌化することが報告されています。

## 子宮内膜症が不妊原因となる理由

子宮内膜症性のう胞は、発症することで卵巣機能低下、排卵障害の可能性を引き起こします。また卵管に対しては、子宮内膜症による腹腔内癒着が原因の卵管通過性障害や卵管ピックアップ障害などの卵管機能障害を起こすこともあります。また子宮内膜症病変により、卵子や受精卵へ影響し、精子運動障害、受精障害、受精卵発育障害への誘導となります。



## 診断

エコー検査・MRI・血液検査などで診断します。

確定診断は腹部内部を覗く手術(腹腔鏡)を行います。

## 治療

### 内科的

薬（内服・点鼻・注射）を用い、排卵を止めることで子宮内膜症病変の増大を防ぎます。排卵を止める治療になるため、内服中は妊娠ができません。

### 外科的

手術（腹腔鏡手術・開腹手術）

#### ● 手術の適応

日常生活に支障が出るほどの月経痛や性交痛がある場合、子宮内膜症性のう胞のサイズが5cm以上の場合、のう胞の破裂や膿瘍などの合併症を起こすリスクがあるため、基本的には手術をお勧めします。

手術のデメリット: 手術により、卵巣機能低下が起こること



## 妊娠への影響

子宮内膜症自体は妊娠すると改善すると考えられています。消失することではなく、縮小することが多いとされています。そのため、子宮内膜症性卵巣のう胞のサイズが大きいものに関して、卵巣のう胞の破裂、卵巣膿瘍の形成、早産などの妊娠中合併症のリスクと言われていきます。

## 治療の選択肢として

不妊治療の効率化をめざして、先に体外受精治療を行い、良好胚を複数個保存した後、手術を行った後、胚（受精卵）移植をして妊娠を目指すという選択肢もあります。

治療方針については様々な要因で決定していくため担当医にご相談ください。

医療法人社団守巧会 矢内原ウイメンズクリニック  
〒247-0056  
神奈川県鎌倉市大船1-26-29-4F  
TEL:0467-50-0112 FAX:0467-50-0113  
<https://www.yanaihara.jp/> Email info@yanaihara.jp